

令和5年度一番茶実収報告

京都府農林水産技術センター
農林センター 茶業研究所

1. 摘採日

仕立て法	2023年	2022年	前5か年平均	平年
自然仕立て	4月 28日	5月4日	5月 4日	5月 6日
弧状仕立て	4月 29日	5月4日	5月 2日	5月 6日

○平年は、平成6年～令和4年までの29年間の平均値

2. 生葉収量 (kg/10a)

仕立て法	2023年		2022年		前5か年平均	
	収量	指数	収量	指数	収量	指数
自然仕立て	621.5 ± 54.7	93	660.2 ± 55.6	99	666.0 ± 129.8	100
弧状仕立て	188.0 ± 40.4	76	267.0 ± 40.7	108	248.0 ± 38.1	100

○指数は前5か年平均を100とした場合の比

3. 百芽重 (g)

仕立て法	2023年		2022年		前5か年平均	
	百芽重	指数	百芽重	指数	百芽重	指数
自然仕立て	57.7 ± 4.1	90	62.8 ± 14.5	98	64.0 ± 8.0	100
弧状仕立て	68.8 ± 13.6	143	57.3 ± 5.7	119	48.0 ± 11.8	100

○指数は前5か年平均を100とした場合の比

4. 新芽数 (本/m²)

仕立て法	2023年		2022年		前5か年平均	
	新芽数	指数	新芽数	指数	新芽数	指数
自然仕立て	509.6 ± 92.7	113	457.8 ± 53.9	102	450.0 ± 112.2	100
弧状仕立て	745.0 ± 128.6	58	1245.0 ± 261.0	98	1275.0 ± 373.6	100

○自然仕立ての数値は、20cm幅帯摘みの新芽数

○指数は前5か年平均を100とした場合の比

5. 出開き度 (%)

仕立て法	2023年	2022年	前5か年平均
自然仕立て	38.7	71.9	51.0
弧状仕立て	15.0	82.8	57.0

6. 概要

(1) 摘採日

本年の一番茶摘採日は、自然仕立て園では、前5か年平均より6日早い4月28日、弧状仕立て園では、前5か年平均より3日早い4月29日となった。

(2) 生葉収量

生葉収量は、自然仕立て園、弧状仕立て園ともに前5か年平均と比べて少なかった(指数 自然仕立て園：93、弧状仕立て園：76)。前5か年平均と比べて、自然仕立て園では百芽重が小さかったことが、弧状仕立て園では新芽数が少なかったことが一因と考えられる。なお、弧状仕立て園では前年に更新を行った。

(3) 病虫害の発生状況

当所におけるフェロモントラップによる越冬世代の誘殺状況は、チャホソガの誘殺盛期は平年より早く3月第6半旬(平年は4月第1半旬)であり、誘殺数は3月～5月第5半旬で平年より多かった(平年比325.1%)。チャノコカクモンハマキの誘殺盛期は平年より早く5月第1半旬(平年は5月第2半旬)であり、誘殺数は3月～5月第5半旬で平年より少なかった(平年比13.7%)。

(4) 茶市場の出荷状況

5月25日現在の全農京都茶市場への出荷量は、対前年度同回までの累計比で、てん茶が81%、揉み茶が72%となっている。

手摘みてん茶	： 54%	はさみ摘みてん茶	： 82%
手摘み玉露	： 99%	はさみ摘み玉露	： 101%
煎茶	： 71%	かぶせ茶	： 82%